

# 子どものための創作ワークショップ

久保田 貴美子

## 【色と形であそんでみよう】

日 時 2012年 5月 6日 (日)

13時30分～15時30分

場 所 呉市立美術館

参加者 子ども21名

(3歳～小3 保護者同伴)

呉市立美術館で開催されていた特別展『スペインの巨匠 ミロ展』にちなむワークショップで、比治山大学生涯学習センターと呉市立美術館の連携講座として行いました。

豊かな「色」と想像力にあふれる「形」で構成されるミロの作品。「色」と「形」で遊ぶことは造形表現の基礎となります。今回のワークショップは無限にある色と形を組み合わせ、自分の思いを表現することをねらいとしました。

まず、担当学芸員さんの解説を聞きながらミロ展をじっくりと鑑賞。一見、抽象絵画のように見えるミロの作品ですが、実は「太陽」「星」「月」「鳥」など身近なモチーフが、赤・青・黄・緑などの原色を用いてユニークな形で描かれています。いったん、ミロの「星」を見つけると、「あっ、ここにも星がある！」などと宝探しのように、じっくりと絵を見ていく子どももいました。またミロの作品の特徴として、力強い黒い線もあげられます。カラフルな画面上で、自由奔放に描かれた黒い線はとても印象的です。子どもたちはミロの作品からきっといろいろなことを感じたはずです。

鑑賞後、ミロの作品から多くのインスピレーションを受けた子どもたちは、さっそく共同で作品づくりに取りかかりました。まずは原色の

折り紙をびりびりと好きな形にちぎっていきます。それを白い大きな模造紙に自由に貼っていくのです。大きくちぎったり、小さくちぎったり、いろいろな形にちぎってできた色の破片が、1枚また1枚と貼られると、まるで何もなかった大地に、一面ぱっと花が咲いたようにカラフ



こんなに大きな紙に描くの？



ビリビリ、いろんな形にちぎってみよう。



ようし、ここに貼りつけよう。

ルな世界が広がりました。色や形のバランスを見ながら慎重に貼りつけていく子や、太陽や家の形に紙を貼っていく子など、思い思いに自分の表現をしていました。

次に、黒い水彩絵の具をつけたローラーを転がして黒い線を描きます。先ほどまでのどちらかというところじっとり吟味しながら紙を貼るという作業とうってかわって、今度は行為性が前面に出てきました。ローラーでコロコロするという行為自体を楽しむ子どもが続出。ついに手や足に絵の具をつけて、手形や足形をつける子ども出てきました。まさに生命感あふれる画面です。最後は黒いクレパスを使って、線でミロの「星」を描き込みます。コロコロローラーで高揚した気持ちを抑え、作品の完成へとつないでいきま

す。

このように3歳から小学生までの参加者が共同制作した作品は、ミロもきつとびっくりの自由で迫力のあるものになり、会期中、美術館で展示されました。

保護者の方からは「子どもとアートにふれて楽しかった」「ローラーで絵を描いたり、クレパスで描いたり楽しめたようだ」などの意見をいただきました。また今後のワークショップの希望としては「子どもが楽しめて、一人ではできにくいもの」「家でなかなかできにくいもの」「身近なものを使った工作」「版画」「子どもが楽しめるもの」などがありました。

今回のように、広い会場で汚れることを気にせずのびのびと活動できる機会は、学校や家で



たくさん貼れたね。とってもカラフル。



ローラーでコロコロするの、楽しい！



えいっ！手形もつけちゃえ。



ミロに負けない迫力満点の作品ができあがりました。

はあまりありません。子どもたちは作品の出来栄より、むしろ作品をつくっていくプロセス、行為を楽しんでいたように思います。保護者の方も時には子どもと一緒に作品づくりに加わり、また見守っていたりとほどよい接し方をしておられました。

### 【分身を作ろう！】

日時 2012年8月6日（月）

10時～12時

13時30分～15時30分

場所 広島県立美術館

参加者 各回 子ども15名ずつ

（3歳～小3 保護者同伴）

広島県立美術館主催の『ワクワク！ドキドキ！夏休み子ども美術館』でのワークショップを昨年に引き続き行いました。「分身を作ろう！」というテーマで、大きな画用紙に自分の全身を型取りし、等身大の分身を作るものです。毎日少しずつ成長している子どもたち。今回のワークショップでは、子どもたちの今日この一瞬の姿を型取りして、カタチに残してみようことをねらいとしました。また親が子どもの型を取ることで、親子の会話、ふれあいが生まれることも期待しました。

まず、子どもたちが大きな画用紙の上に寝転がり、自由にポーズをとっていきます。このポーズ決めも皆それぞれにこだわりがあって、見ていてとても楽しいひとときです。そして保護者の方や、お友だち、きょうだいなどがその輪郭をクレパスでなぞっていきます。寝転がって

いる子どもたちは、ちゃんとできているか少しばかり心配そう。輪郭をなぞるお父さんやお母さんたちの目も真剣そのもの。そーっと慎重に描いていきます。

輪郭ができたら、クレパスで色を塗って描いていきます。もう一人自分がいるとしたら、どんな自分になりたいかな？どんなデザイン、色の洋服にしようかな？一人で黙々と描き進める子や、親子やきょうだいで話し合いながら描く子もいます。そうしていろいろな分身ができあがりました。等身大の自分を描き、色を塗り、



大の字になってみよう。



赤ちゃんも分身。



どうやって作るのかな？



大きな分身、しっかり塗る。

はさみで切り抜く作業は結構大変です。お父さんやお母さんたちのがんばりと、子どもたちの根気で作品は完成しました。実際にできたばかりの分身と向き合った時は、皆さんともうれしそうでした。親子がふれあう、楽しく、温かい時間を一緒に過ごすことのできたワークショップでした。



水玉模様が好き。



パパ、そんな模様を描かないで。



私に負けない元気な分身。



すごいしぼが生えている。切り抜くのが大変！



ポニーテールとピンクのドレス、水色のハイヒールが素敵。



きょうだい、ダブル分身。